近所の叡智なえっちなお姉さん

モノクロイド

Monochroid

DOJIN
R18
成人向け

『近所の叡智（えいち）なお姉さん』

作：モノクロイド

「香澄さん編」

静まり返る住宅街に、ようやく朝日が差し込む。その景色を一階の窓から眺めながら、外気との温度差でついた結露を、僕は雑巾で拭き取っていた。

ガチャン……。

真向いの家の外門が開く音と、共に僕の心臓の音も飛び跳ねる。いつもこの時間に出勤する彼女、「辻宮　香澄」には、小さい頃から、お世話になっている。共働きで両親が家にいない時に、僕とよく遊んでくれた。そんな彼女も今年から社会人だ。今まで以上に遊べなくなることに寂しさを覚えつつも、僕と目が合うと手を振ってくれる彼女が見たくて毎朝、玄関周りの掃除に励んでいる。

「ごめんね今日は、パパも
ママも遅くなりそうなの」
学校帰りに母からの電話
で急遽、香澄さんの家で
晩御飯を食べることになった。
（久々に香澄さんの手料理が食べられるッ）
僕は風船のようにふわふわとした気持ちで、帰路に着いた。

今日はありがとうございました
あ、洗います
いいのいいの気にしないで
でも…
じゃぁ…一緒にやろっか
はいッ
…ごめんなさい
お皿割っちゃって…
謝んなくていいって言ってるでしょ
それより怪我無かった？
…うん
よかった…
服洗濯するからお風呂入っといで
はぁい…
ギュッ

ヤチャッ
?
キュッ
ちゃんと洗えてる〜?
えッつ!?
あらいっこしよっかッ
ええええッ

こ、こんなことになるなんて

ギャアン…

ラッ

あッ

ヒュルッ

ピクッ

んっ

んんッ

あ…だめ…

ビクッ

ヒュルッ

ダメ

トオル～知ってるか～
ポッキっていうんだぜぇ～
これってあっくんが言ってた…
Hっちな時になるやつだ…
どうすれば…
ビクッ
ビクッ
ボッ
あっ
か、香澄さんッ!?
%えッ!?
!?$%&

ちゃんと全身きれいにしないとね…
あっの…
かおりっさっつあああん
いーからいーから私に任せてッ…
トオル君も大きくなったね～
あッ
も、もう洗ッえったから
ん～？

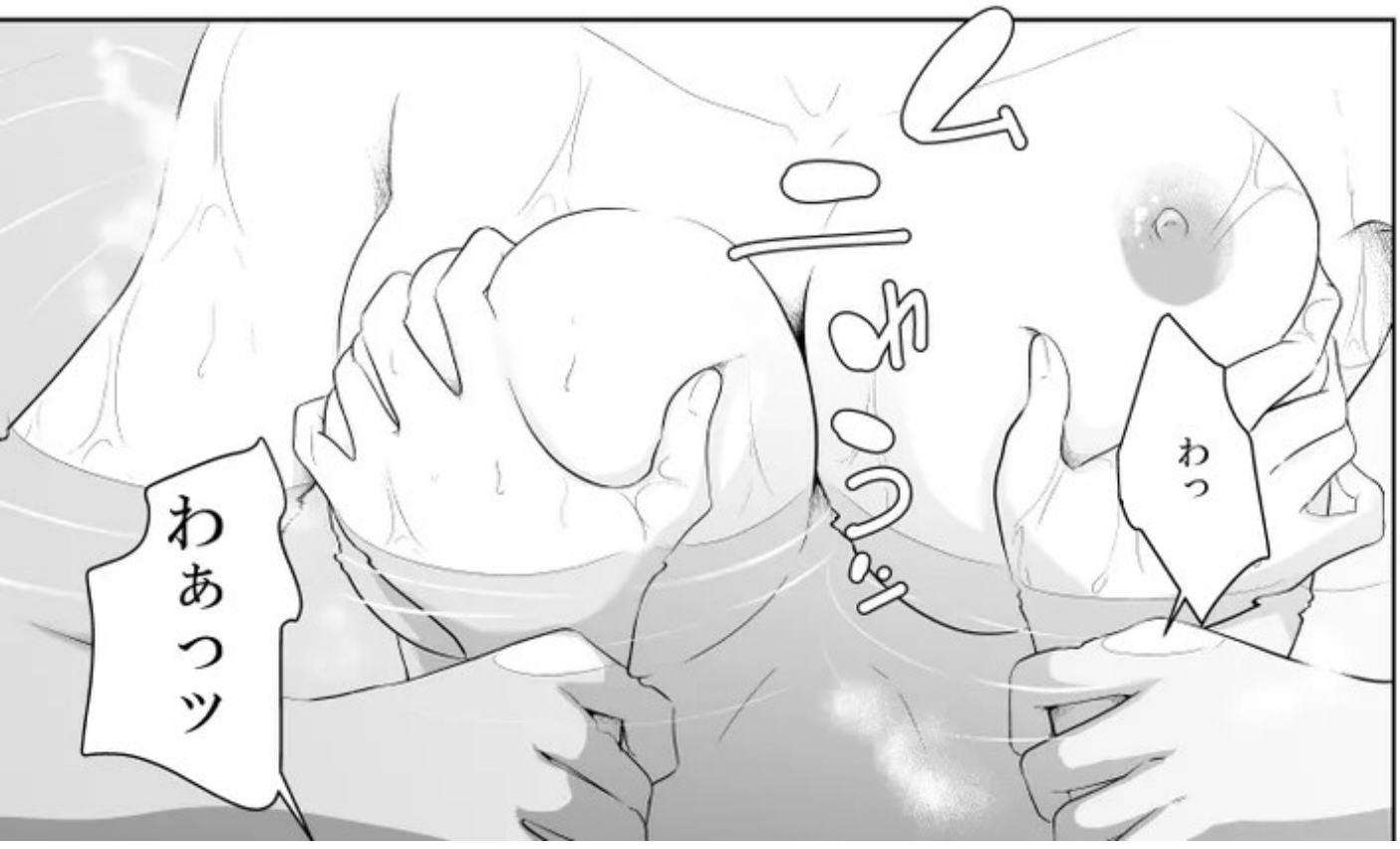
んぁっ
あっ あっ
あらら…
また綺麗にしないと
いけなくなっちゃった…
ガクッ
ガクッ
ぶるぶる
まっ
ぶるぶる
ぶるぶる
ぶるぶる

恥ずかしいところ見られちゃった…

次は僕が洗ってあげるね

ほんと!?

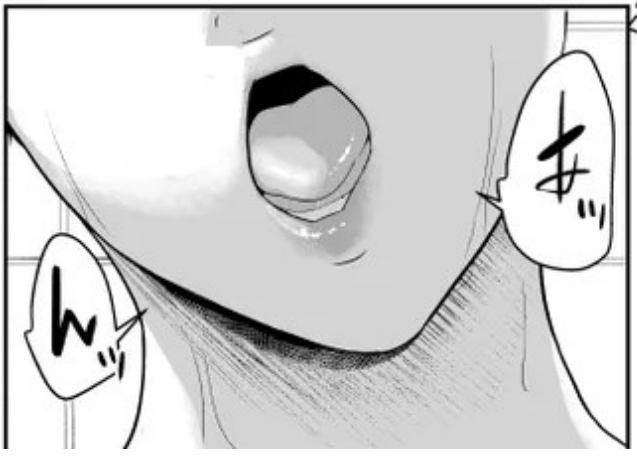
そう言えば何でおしっこ白かったんだろ?



ほらっ
ちゃんと見て
触って…
あっつの
ええっつああ
ビクッ
ビクッ

んっ
あっ
ムニュッ
ムニュッ
ムニュッ

ピクッ


あッ
んッ

か、香澄さんッ

止めないで…

もっと…

先までしっかりと…

そう…

そこ…

あぁんッ

トオル君凄く上手ね

はぁんッ

はぁッ

ドッ

ドッ

ドッ

あ…

あ…

あぁんッ

ぼー

くらくらする…

ごめんねー
お風呂熱かったよねー

香澄さん？

大丈夫…
ゆっくりしてて…

あッ

お詫びに
お姉ちゃんが
マッサージしてあげる

マッサージ…？

だッ

んあッ

くにゅ

にゅぷ

にゅぷ

あッ
あッ

くりゅ

うう

んあ
あッ

な、何か？
へ、変な感じ…

フッ
初めてだもんね

あっあっ…

ドキドキッ

それじゃあ始めるね…

お口で…
マッサージ
するの？

ふふっ…
そうだよ～
大人のマッサージ

すごく
気持ち良いんだって

あっ…えっと
…うん

ちゅぱッ

んッ
あッ

ちゅるッ

ちゅッ

はぁッ
んっはッ

ビクッ

ビクッ

あっ
あぁ
ぐぽっ
ちゅっ
くちゅっ
ビクッ
ビクッ
ビッ
あぁ
あぁ
おぉ
スポッ
ちゅ
ちゅ

な、なんか おちんちんが あったかくて ムズムズする…

気持ちいい？

ちゅッ ちゅぽッ ちゅるッ

ちろ ちるッ

っ…う、うん たぶん…

そのまま…

レロ レロッ

ん ッ

我慢しちゃ だめよ

ヌリュッ

えッ んッ あぁん？

それじゃあ…

ヌプッ

ビクッ

れべるあーっぷっ

ちゅるるッ

ドッ

あッはッ

ぐぎッ
ん
ぎッ
ぎッ

ま、また
お、おしっこでちゃった…
ご、ごめんなさい…
ぬぎぬぎしようねぇ～
ポイッ
ポイッ
あっ
もう食べちゃお…
へっ？
ぐぐッ
ぐぐッ
モジ
お、お布団
汚しちゃった
お、せんたくを…
モジ

ほーらっどんどん
はいっていくよ～
あッ
あッ
あッ
あッ
あッ
あッ
あッ
おねえちゃぁッ
ん～どうしたの～
なんッか
へんなかんじッ
おしっこ出した
ばっかりだからだね
あんんッ

ジーッ
ビクッ
ビクッ
ズプッ
メチャ
あッ
ぁぁ
ぁぁ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぁぁ
んッ
くちゅ
くちゅ
だッめぇ
ラブラブなHしてネェ
かわいい…
ぷるッ
おねえちゃッ
ぁッ
しゅッ
ちゅぱッ
ちゅぱッ
んっ

ちゅー…
してる……の？

おねぇ…ちゃ…

おしっこ
でちゃうよぉ

ぱんっ

ちゅぱっ…

じゃあ
もっと動かないとね

あッ

だめッ

んぁ
あッ

あぁッ

んッ
あっ

ぱんッ

ぱんッ

ぱんッ

ぱんッ

ギュッ

だッ
ダメ

また
キンちゃう
よぎぎッ

いいんだよ…

あッ

おもいっきり
イっちゃぇ

あッ

あッ

んぁ
あぁんッ
ほらッ
びゅーって
ぐぐ
ぐぐ
ぐぐ

ガッ
ガッ
ガッ

パンッ
気持ち良かった？
は～いおしま～い
おつかれさま～
はぁ
はぁ
今日は
ここまでにしよっか
くすッ
もう一回…する？
カ

それから僕はお母さんたちが帰ってくるまで

香澄さんとマッサージをし続けた

くちゅ

くちゅ

ちゅッ
ちゅぱッ
プルッ…
トオル君…明日も
お母さんたち遅いんだって
また一緒にご飯食べよっか
う…うん
今日のマッサージ
誰にも言っちゃだめだよ
だれにも…？
二人だけの秘密…
ちゃんと守れたら
もっと気持ちいいこと…
してあげる

ぎ
ぎ
ぎ

Twitter：@MonochroDouzin
ファンティア：モノクロイドの整備場

お久しぶりです。最近ファンティア始めました。
定期更新する予定があると、締め切り効果で
身が引き締まりますね。

あとがき

ご購読まことにありがとうございます。
いかがでしたでしょうか。
ご満足いただける内容であれば幸いです。

今回の作品は、お姉さんに筆おろしされるお話です。なすがままにされる主人公が、どんどん気持ちよさを知っていく過程を描いてみました。

さて、次回以降のスケジュールですが、「遊びのつもりだったのに総集編」を進めつつ、短編を仕上げる予定です。
出来次第でどちらかを出品できればと考えています。
それでは、また次作にて～。

作品に関してご意見ご感想などありましたら
コメントしていただけると嬉しいです。
お気軽にどうぞ～。

モノクロイド

近所の叡智なお姉さん 香澄さん編

2025年3月

近所の叡智なお姉さん 香澄さん編

作者… モノクロイド

シリーズ… SchoolMemorys

本作品はフィクションであり
実在の人物、団体などとは関係ありません

本書の無断複写・複製・改ざん
web上へのアップロードを
禁止しています。

©Monochroid2025